

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：72622
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2013～2016
 課題番号：25284141
 研究課題名(和文) ワクフ(イスラーム寄進制度)の国際共同比較研究

研究課題名(英文) International Joint Research of Waqf

研究代表者

三浦 徹 (Miura, Toru)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：00199952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円

研究成果の概要(和文)：フランスCNRSの国際共同研究「イスラーム地域におけるワクフ」と連携し、中東、欧米、日本において、8回の国際研究集会を開催し、研究者間の緊密なネットワークと研究データを共有するためのデータベースを構築した。

アラブ、イラン、中央アジア、南アジア、東南アジアなどを対象に、寄進者や利用者や受益者など個々人が、どのような目的で、ワクフ財(寄進財)や宗教施設に係わり、なにを得ていたかの動態を解析した。中国(族産、宗廟)、日本(寺社の荘園)、ヨーロッパ(死手財産)など、不動産の寄進によって、一族と社会の双方の利益を確保するシステムはひろく諸地域に共通し、比較研究のためのワクフ/寄進の再定義を行った。

研究成果の概要(英文)：This research program has conducted a comparative study of waqf endowment, in collaboration with the CNRS International Research Program (GDRI) centered at Aix-Marseille University (headed by Professor Randi Deguilhem), holding the eight international workshops in Aix-en-Provence, Tunis, Birzeit (Palestine), Mascara (Algeria), New Orleans (USA), Ankara (Turkey) and Tokyo. This research clarifies the socio-economic role of waqf donation by cross-area comparisons among waqf, not only within the Middle East, but also to include Central Asia, South Asia, Southeast Asia, and similar endowments in China and Japan. Our goal was to find and locate both regional features and historical changes of the waqf and similar donations within the sweep of human history, based on a common definition of the waqf, by analyzing historical materials of each region from comparative perspectives on topics such as purpose, management, profit and its distribution, transformation and abuse etc.

研究分野：イスラム史、中東地域研究

キーワード：寄進 ワクフ 慈善 都市 比較史

1. 研究開始当初の背景

ワクフは、イスラーム世界の独特の寄進行為で、慈善目的で個人の私有財（通常は不動産）を寄進し、当該財産からの用益（多くは賃貸借料）を慈善目的に用いるものである。宗教施設（モスクやマドラサ＝大学や修道場など）がこれによって建設・運営され、また寄進された不動産は、耕作者や商人などに賃貸され、その収益は宗教施設の運営費として使用されるとともに、寄進者やその一族が収益を得ることも認められていたため、寄進者は家産を子々孫々まで継承・保全することもできた。ワクフに関する法規定が整ったのは9世紀であるが、とくに11世紀以降にはマドラサや修道場といった宗教施設の建設が盛んになり、都市の宗教文化施設と社会経済資本の整備がこの制度によって促進された。

ワクフは都市の宗教施設や経済施設の建設に深く関わっている。このため、都市研究の分野では早くから注目され、個別都市についての研究が蓄積されてきた（Haneda & Miura ed., *Islamic Urban Studies*, London, 1994）。ここでは、宗教施設（ワクフ施設）の研究が多数をしめ、ワクフ寄進文書などの文書史料を用いたワクフ財の研究が本格化したのは1980年代以降である。

近年は、特定の地域のワクフの調査記録（台帳）などを用い、社会資本としてのワクフの全体像を提示する研究が行われている。ワクフの研究は、一方で「宗教的寄進」というヴェールに隠された社会資本としての利用とそれをめぐる社会関係の形成を明らかにする個別研究が輩出するとともに、他方でイスラームの法や国家のもとでの共通のシステムや歴史的变化を解明するために、国際的な共同研究が必要となっている。

2. 研究の目的

本研究は、フランス国立科学研究所（CNRS）国際共同研究「ワクフ」（2011-15年、研究代表者ドゥギエム Randi Deguilhem（エクス・マルセイユ大学地中海人文科学研究所教授）と連携し、イスラーム地域（中東・中央アジア）において、ワクフ（イスラーム寄進制度）によって形成される社会経済関係を分析し、寄進財に関わる国家、集団、個人の3者の社会関係を明らかにする。CNRSの国際共同研究にはアラブ諸国を中心に10機関が連携し、（公財）東洋文庫研究部を中心に、トルコ・イラン・中央アジアの研究者、さらにはヨーロッパ・中国・日本の寄進制度の研究者を組織した本研究計画を実施することによって、国際的なワクフ・寄進制度の社会機能に関する比較研究を行い、宗教と経済が結びついた社会のあり方を分析する。

3. 研究の方法

< 地域社会におけるワクフの役割 >

各研究分担者・連携研究者が専門とする地域（シリア、エジプト、イラン、トルコ、中央アジア）におけるワクフの役割を明らかにする。ここでは、社会資本としてのワクフの機能と、ワクフという資本財の寄進・利用・管理を通して形成される人的関係に着目する。

< 国際共同比較研究 >

CNRSの国際ワクフ研究プログラムでは、2013-15年に各連携機関がワークショップを開催する（エクサンプロヴァンス、アルジェ、チュニス、ビルゼイト、クウェートなど）。連携機関・参加研究者の研究対象の多くはアラブ地域であり、他方東洋文庫をベースとする本研究に参加する研究者の研究対象は、イラン・トルコ・中央アジアを含む。両研究プログラムの連携によって、マグリブから中央アジアまでのイスラーム地域におけるワクフの社会的機能を比較し、共通のメカニズム（法制度、社会経済システムなど）と歴史的な変化をあぶり出す。また、ヨーロッパ、東アジア（中国、日本）の寄進との比較研究を行い、ワクフという行為や制度を人類史のなかに位置づける。

4. 研究成果

(1) 国際共同研究の活動

フランス CNRS の国際共同研究「社会に足跡をのこす：イスラーム地域におけるワクフと宗教的コミュニティ」(2011-15年、研究代表者ドゥギエム エクス・マルセイユ大学教授)と連携し、下記のような国際研究集会（ワークショップ）を開催し、知識情報と論点の共有を図り、ワクフにかかわる研究者間の緊密なネットワークをつくりあげた。また、研究データを共有するための、データベースの構築を行った。

2012年7月、キックオフ会議、エクサンプロヴァンス（フランス）

同12月、データベース・ワークショップ、チュニス（チュニジア）

2013年7月、「実践から規範、規範から実践へ：ワクフの管理」エクサンプロヴァンス

2013年10月、「比較の必要：地域を越える地域研究」北米中東学会（ニューオーリンズ）、

2014年6月、「ワクフとその用語：社会的地域の実態と法規範」、マスカラ（アルジェリア）

2014年8月、「理論と実践の共通性と多様性：イスラーム地域とヨーロッパのワクフや寄進の分析」第5回中東研究世界大会（アンカラ）

2014年10月、「ワクフから都市史を読む」ビルゼイト(パレスチナ)

2015年7月、「ワクフをめぐる個人とそのネットワークの制度化」、エクサンプロヴァンス

2015年12月、「東からのワクフの比較：宗教や家族のための寄進の規範と実践のダイナミズム」、東洋文庫国際シンポジウム

(2) これらの研究集会では、一次史料を手がかりに、アラブ、イラン、中央アジア、南アジア、東南アジアなど、特定の地域や時代の寄進を対象に、寄進者や利用者や受益者など個々人が、どのような目的で、ワクフ物件(ワクフ財)にどのように係わり、なにを得ていたかを解析し、当該社会の生きたメカニズムを明らかにした。

そこでは、イスラーム法の規範・規定をもとにしながら、寄進財からの利益を確保するためのさまざまな手段が用いられ、合法的に私有財に転化することもあり、規範と実践の相互関係のダイナミズムに着目した。また、19世紀以降、ヨーロッパ諸国のアジア進出にともない宗教的寄進財としてのワクフのあらたな法制化が進んだことが、地域間比較によって明らかとなった。

(3) 寄進行為は、日本、中国、ヨーロッパにも見られ、中国(族産、宗廟など)、日本(寺社の荘園)、ヨーロッパ(死手財産)の研究から、不動産の寄進によって、一族と社会の双方の利益を確保するシステムは、ひろく諸地域に共通する。ここから、地域や時代をまたいだ比較研究のためのワクフ/寄進の再定義を行った。

「取消(取戻し)不能な財産の寄付(寄進)。そこからの収益を、寄付者の家族や慈善・宗教のために使用し、その遂行のために、寄付者と国家の双方から独立した経営体をつくる」

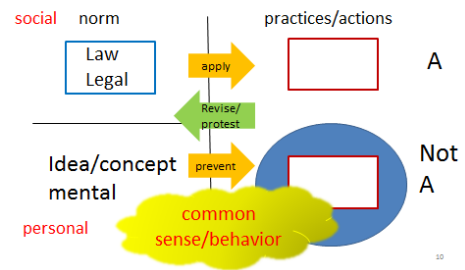
現在においても寄付・寄進は、富の再配分として公共的性格をもっている。今後、ヨーロッパ史、中国史、日本史の研究者の参画によって、寄進のもつ私的・公的の両面に着目し、それぞれの社会における財の環流のしく

寄進をめぐる社会関係



みを考察する。

(2) Norm and Practices reciprocal relation



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Toru Miura et al., Comparative Study of the Waqf form the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations, *Modern Asian Studies Review*, 査読なし, vol. 7, 2016, pp.38-57. <http://www.toyo-bunko.or.jp/research/e-journal/MASR07/#page=1>

[学会発表](計25件)

1. Toru Miura, "Transregional Comparison of the Waqf in the Premodern Times: Japan, China and Syria", Waqf Workshop at Georgetown University in Qatar, 4-5 December, 2016, Doha (Qatar).

2. Toru Miura, "Waqf and Urban Development in Damascus and the Salihiyya Quarter from the 12th to the 20th Centuries", Esfahan University Workshop, 14 August, 2016, Esfahan (Iran).

3. Nobuaki Kondo, "State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah 'Abd al-'Azim Shrine under the Qajars", Comparative Study of the Waqf form the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations, The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks of the Toyo Bunko, 5-6 December, 2015, Toyo Bunko (Tokyo).

4. Kenichi Isogai, "Waqf as a Sustainer of Educational Activity: A Sixteenth Century Waqf for a Bukharan Madrasa", Comparative Study of the Waqf form the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations, The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks of the Toyo Bunko, 5-6 December, 2015, Toyo Bunko (Tokyo).

5. Toru Miura, "Personal Network around the 'Umariyya Madrasa in the Šālihiyya

Quarter of Damascus: Toward Creating a Theoretical Model from an Empirical Case Study”, International Symposium Leaving One's Trace in Society: Individuals and the Institutionalization of their Networks in Society via their Waqf Foundations, 4-5 June 2015, Aix-en-Provence (France).

6. Tomoki Okawara, “Islamic Waqf Institutions in the Ottoman Judicial Reform Period (19th Century)”, The 5th World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), 22 August, 2014, Ankara (Turkey).

7. Toru Miura, “What is called an Act of Donation?: A Comparative Terminology”, International Workshop on Waqf and its Terminology: Between Local Social Practices and Jurisprudential Norms, at the University of Mascara, 23-24 June 2014, Mascara (Algeria)

8. Toru Miura, “A New Approach to analyze the Waqf Donation from Transregional and Comparative Viewpoints”, Roundtable, The Need to Compare: Going Beyond the Area Studies Approach for “Thinking Waqf” at the 47th Annual Meeting of Middle East Studies Association of North America, October 11 2013. New Orleans (USA)

9. Toru Miura, “Profiles of Agricultural Waqf and Milk Properties in Damascus Province in the 16th Century, CNRS-GDRI Workshop “From Practices to Norm – From Norm to Practices: Administering Waqf and other Foundations”, 6-7 July, 2013, Aix-en-Provence (France)

〔図書〕(計 35 件)

1. Tomoko MORIKAWA and Christoph Werner (eds.), Toyo Bunko, *Vestiges of the Razavi Shrine, Āthār al-Rāzavīya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad*, 2017, 370p.

2. Toru MIURA, Brill, *Dynamism in the Urban Society of Damascus: The Ṣālihiyya Quarter from the Twelfth to the Twentieth Centuries*, 2015, 347p.

3. MIURA Toru & SATO Kentaro ed., Toyo Bunko, *The Vellum Contract Documents in Morocco in the 16th to 19th Centuries Part I* (Toyo Bunko Research Library 15), 2015/3, 308p.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

三浦 徹 (MIURA Toru)
(公財)東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号: 00199952

(2) 研究分担者

大河原 知樹 (OKAWARA Tomoki)
(公財)東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号: 60374980

近藤 信彰 (KONDO Nobuaki)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号: 90274993

守川 知子 (MORIKAWA Tomoko)
東京大学・人文社会系研究科・准教授
研究者番号: 00431297

林 佳世子 (HAYASHI Kayoko)
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号: 30308615

磯貝 健一 (ISOGAI Kenichi)
(公財)東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号: 40351239

永田 雄三 (NAGATA Yuzo)
(公財)東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号: 20014508

(3) 連携研究者

五十嵐 大介 (IGARASHI Daisuke)
早稲田大学・文学学術院: 准教授
研究者番号: 20508907

岸本 美緒 (KISHIMOTO Mio)
(公財)東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号: 86126135

大月 康弘 (OHTSUKI Yasuhiro)
一橋大学・経済研究科・教授
研究者番号: 70224873

高橋 一樹 (TAKAHASHI Kazuki)
武蔵大学・人文学部・教授
研究者番号: 80300680